

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1472700556
法人名	(株) ジャパウイン
事業所名	三浦こもれび
訪問調査日	平成 20年 12月 17日
評価確定日	平成 21年 1月 15日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472700556
法人名	株式会社 ジャパンウィル
事業所名	グループホーム三浦こもれび
所在地	三浦市初音町高円坊 1452 (電 話) 046-889-3350

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年12月17日	評価確定日	平成21年1月15日

## 【情報提供票より】( 20 年 12 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.4 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46000~58000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(239200~600000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1400 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 80 歳	最低 66 歳	最高 90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦市立病院、横須賀市民病院、古屋歯科医院、三浦診療所他
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施設ではなく小じんまりした家庭であること」をモットーに、1ユニット9人制を採用し、入居者の自主性を尊重して、全員が家族として信頼しあえる関係を築くことを基本に運営している。</li> <li>・重要事項説明書に、「重度化した場合の対応及び看取りに関する指針」を定め、入居時に本人と・家族に終末期まで対応する旨説明し将来に対する安心感を与えている。また、医師と緊密に連携して、薬への依存を押さえる介護で大きな成果を上げている。</li> <li>・事業所は田園地区にあり、野菜、花、梅の木など四季を楽しめる広い庭があり、ゆったりとしたスペースの恵まれた住環境で、地域との交流の機会も多く、親密な相互信頼が築かれ地域に支えられた運営を行なっている。</li> </ul>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> ・1年間の改善課題として、“味付け、盛り付けを工夫して目でも楽しく味も良い”を追求し、安全で美味しく楽しい食事の提供をテーマに取り組んだ。 ・今日はAさんの好みの料理、次はBさんのと、順次利用者の好みを取り入れ、採用された利用者の満足に、他の人が共感し楽しいムードで食事を楽しんでいる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> ・自己評価票を全職員に配布して、各人が記入したものを管理者が取りまとめた。 ・管理者がまとめる過程で職員と話し合い、サービスの内容を検討し、課題を共有して日常業務の改善に役立てている。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> ・運営推進委員会は、4か月ごとに定期的開催している。 ・事業所から活動状況を報告し、各出席者からは情報の提供と提言があり、地域との交流やサービスの質の向上に寄与している。 具体例として、地域行事の情報提供と参加の案内、地域の小学生やボランティアを紹介してもらい、外部の人達との交流で生活に変化と活気が生まれている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> ・“1ユニットの小規模で家庭的な介護”が基本姿勢であり、沖縄、宮城の遠距離の家族も含め親しく情報交換ができる間柄になっている。遠距離からの来訪者は、利用者全員と一緒に食事をし利用者の部屋で宿泊することを常とし喜ばれている。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> ・地元の小学生やボランティアとの交流の他、近隣の高齢者が遊びに来てお茶を飲んで行ったり、子どもたちが自由に遊びに来て入居者と過ごすなど、自然な形で日常の交流が行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所の理念に、「こもれびの陽だまりの中でやさしさ、思いやり、感謝の気持ちを忘れずに喜びあふれた交流の輪を地域に築きます」を掲げ、日常生活の中で着実に実践している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念とは別に、日常の行動指針を定めて掲示し、毎月のカンファレンスや朝夕のミーティングで、理念に沿った対応になっているかを振り返り、日常のケアの中で具現化に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・利用者は自治会に加入しており、職員と地域のお祭りなどの行事に参加している。また、地元の小学生やボランティアとの交流で生活に変化と活気が生まれている。 ・近隣の方とは、自由に施設に立ち寄ってお茶を一緒に飲んで行く関係を築いている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価票を全職員に配布し、各人が記入したものを管理者が取りまとめた。 ・管理者がまとめる過程で職員と話し合い、サービス内容を検討し課題を共有して、日常業務の改善に役立っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は、4か月ごとに定期的開催している。 ・出席者からの積極的な提言と情報提供があり、地域との交流、サービスの質の向上に活かしている。 ・地域内の行事への参加や、地元の小学生やボランティアとの交流を積極的に取り組むことができ、利用者の生活に活気が生まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・入・退居者の状況報告のため、毎月市役所へ出向く機会を利用して、また、特定の利用者に関する報告を郵送でなく、直接持参する機会を捉えて、担当職員と話し合い情報を交換している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・1ユニットで家庭的な介護を基本姿勢にしており、沖縄、宮城等遠方の家族とも親しく情報交換ができる間柄になっている。遠距離からの来訪者は、利用者全員と一緒に食事をし、利用者の部屋で宿泊することを常とし喜ばれている。</p> <p>・利用者の状況は、来訪時に直接、また毎月の便りや電話で報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族とは気楽に話し合える関係を築いており、家族から出された意見や要望はカンファレンスで検討して、事業所の運営に反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・新人職員は、利用者全員に紹介し、馴れるまでは他の職員がフォローしてスムーズに受け入れられるように配慮している。</p> <p>・混乱を防ぐため、退職する人については敢えて説明はしていないが、現状不在を気にする様子は見受けられない。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・年間計画に基づき、月1回法人からの講師による研修会を実施している。</p> <p>・管理者は、各種の研修情報を職員に提供し、職員が自主的に外部の研修に参加してレベルアップに努めている。研修後は報告書を職員全員に回覧して情報を共有している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・三浦市のグループホーム連絡協議会の研修会に職員が参加し、同業者と情報を共有し相互に助け合って、サービスの質の向上に取り組むとともに、同業者を訪問して交流を深めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人・家族と昼食を共にしながら面談して、事業所内の雰囲気馴染んでもらい、その後、体験入居で納得してもらってから、本入居する手順を基本としている。 ・事業所の環境に自然に馴染み、安心した状態で入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・ケアする側、される側の関係でなく、共同生活をする家族としての立場で、一緒に生活する姿勢を貫いている。 ・利用者は、食事の準備、後片付け、掃除、お絞作り、庭の畑、草花の手入れなどを自主的に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・定員9人の小規模のため、入居時のアセスメントと毎日の共同生活の中で傾聴に努め、利用者の思いや意向を把握して、ケアに生かしている。 ・利用者、家族とは何でも相談し合える関係を築き、本人の意向に沿ったケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・月に1回のカンファレンスの時に、介護計画について職員と意見交換して作成している。 ・職員は居室担当制とし、日常生活で把握した情報を担当者を集め、個人ファイルに収納して情報を共有し、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は、通常6か月に一回見直している。 ・申し送りや毎月のカンファレンスで利用者の状況について検討し、変化が生じた場合は随時家族と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・買い物の代行や、かかりつけ医への通院の付き添い、その他便利屋的な作業など、日常的に柔軟に支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・医療対応は、利用者・家族と話し合い事業所の協力医に変更してもらっている。内科医と歯科医の月1回の往診と、週1回の看護師の訪問で、健康管理をしている。 ・協力医療機関が緊急時の対応や健康相談を24時間体制で行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・今年度から、看取りに関する指針を明文化し、職員研修を行っている。入居時に利用者と家族の意思を確認している。 ・終末期には家族と話し合い、医師・看護師・職員で対応している。 ・現在まで5人の看取りを行った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報保護規定を事務室に掲示し、職員も秘守義務を周知している。 ・利用者や家族へも入居時に説明して同意を得ている。 ・職員はプライバシーに配慮し不適切な言葉をかけないように注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者一人ひとりのアセスメントや本人の希望、家族の情報を踏まえて、その人らしい暮らしができるように、職員はその日の体調を見ながら、利用者のペースに合わせて支援している。 ・気の合う人との会話やテレビを見たり、それぞれのペースで過ごしており、職員はそれとなく見守りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材と献立は業者に依頼しているが、ときには、畑で採れた野菜を献立に加えている。 ・利用者も食事の準備や食後の片付けなどに進んで参加し、職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・週2回の入浴日には、利用者の希望する時間に利用できるようにしている。気の合う利用者が一諸に入浴することもある。 ・入浴を好まない利用者へは、言葉掛けを工夫して対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者の生活歴や能力を生かし、畑の草取りや水遣り・洗濯物たたみ・食事作り・食器洗いなど、張り合いをもって生活できるよう支援している。 ・ボランティアによる大正琴・地域の行事への参加など生活に変化をもたせ楽しむ工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は、ほぼ全員が散歩に出かけている ・田園風景に恵まれた環境にあり、敷地内は何時でも自由に散歩を楽しめる環境にある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・内玄関・外玄関とも、職員は常に利用者の居場所を視野に入れて見守っており鍵はかけていない。 ・職員の目の届かない所は、仮の施錠をして、危険を回避出来る様な対策を取っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回消防署の協力を得て、火災・地震を想定した避難訓練を実施している。 ・町内会とは、協定書はないが口頭で協力を要請している。 ・備蓄は今のところないが、準備する方向で考えている。	○	災害に備え、食料・飲料水の2～3日分の備蓄を希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本社の栄養士が、定期的に栄養バランスと水分摂取量をチェックして、献立を指導している。 ・食事量と水分摂取量は各人ごとに記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングは南側に面しており明るく・清潔で、行事に参加した写真が貼り出されている。 ・居室前の廊下は天井が高く、明かりとり窓があり、居室ドアにはナースコール用の点滅装置がつけてある。 ・中庭は広くテーブル・椅子が置かれ畑や花壇もあり、季節ごとに日光浴をしたり、お茶を楽しんだりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者一人ひとりの馴染みの物品を持ち込んでいる。 ・本や新聞を読む机が置いてある利用者もいる。 ・食後は居室でくつろぐ人もいるが、ほぼリビングに集まって談笑している。居室のドアは開けられている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム三浦こもれび
(ユニット名)	1
所在地 (県・市町村名)	神奈川県三浦市初音町高円坊1452
記入者名 (管理者)	石渡 礼子
記入日	平成 20 年 12 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・こもれびの陽だまりの中で、優しさ、思いやり、感謝の気持ちを忘れず 喜びあふれた交流の輪を地域に築きます。 ・明るく、楽しく、安心して穏やかに、慣れ親しんだ生活が維持できる環境を作る。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・個性と人格を尊重し、自然な形で個々の能力が発揮できるように支援している。 ・やさしさと、思いやり、感謝の気持ちを忘れず、個々の自信と感情を豊かな心で支えている。 ・利用者のペースに合わせ、ゆとりを持って笑顔で接している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・コンビニ、交番、スーパー近隣の人々に、入居者の顔を覚えて頂ける様機会を多く持ち対応している。 ・心のふれあいを大切にし、家族の温もりを伝えている。	<input checked="" type="radio"/> さらに、地域との交流を通し、喜びを分かち合える地域に根ざした環境を作っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩の機会を多く持ち、近隣の方や農家の方々と気軽に声を掛け合っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・お祭り、イベント、老人回会等の地域活動に積極的に参加している。 ・ボランティアや近隣の小学生、中学生にホームに気軽に立ち寄ってもらい、ふれあいの機会を持っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>老人会等の行事に参加し、利用者のもっている能力を発揮できるように取り組んでいきたい。</p>	○	<p>お手玉作り、雑巾縫い等 切干大根作り、梅干作り等を行い、近隣の人におすそ分けなどをしたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・閉鎖的に成りがちな為、近隣の方に理解して頂けるように今後も取り組んでいる。 ・職員全員に自己評価を行ってもらい、設問内容に取り組み、話し合いを行った。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・家族、民生員等の意見を取り入れ、利用者サービスに生かしている。 ・利用者の意向や家族の要望、民生員の意見など早期に反映させていくよう取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・書類の提出時や相談指導を受ける時は、電話FAXなどではなく、直接出向き話を聞くようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・後見人制度を必要とし、希望される家族に対して活用できるよう支援している。 ・権利擁護に関する制度の勉強会などを開催し理解を深めている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・管理者、職員一体となり、小さな虐待も見逃さず、声を掛け合い防止に努めている。 ・高齢者虐待防止法関連について学ぶ機会を持ち理解を深めて行くようにしてる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・十分な説明を行い理解納得を得ている。</p> <p>・契約、解約時疑問点があれば随時対応している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者のクレームを受け入れ改善策を考え随時対応している。</p> <p>・意見、不満、苦情を言える様な雰囲気作りをしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・毎月スタッフにより、こもれび通信で近況報告し、変化があった場合には様子を知らせている。</p> <p>・金銭管理は請求書、支払い明細書、領収書を毎月家族の元に郵送している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ご家族訪問時、出来るだけ話し易い雰囲気作りを心がげ意見、不満、要望等を聞く機会を設けている。</p> <p>・出された意見、要望等は申し送り、カンファレンスで話し合いよい方向に反映させて行くようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・全体ミーティング時職員の意見、要望等を聞く機会を設けている。</p>	<p>○ 個人面談を毎月一回程度を目標に行い意見等を聞くようにしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・入居者の状態の変化に合わせた対応をしている。</p> <p>・入居者の変化、状態に合わせたスタッフの勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・入居者、家族の信頼関係を築く為にも職員の定着に心がけている。</p> <p>・新しい職員に変わっても、入居者それぞれが今迄どうりの対応をしていける様に配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・月一回、運営者が職員を集め、セミナー、研修会等を行い職員の育成を行っている。</p> <p>・勤務しながら、研修会などに参加している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・市内にグループホーム連絡会があり、連絡網により、研修会、学習会、各事業所の空き情報等が流れてくるようになっており、互いのサービス向上を共有している。</p> <p>・コンサート、イベントを行う際、招待状やパンフレットを送り、他事業所の職員と利用者様と共に参加して頂いている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・昼食後45分ずつ交代で休憩室で、休息を取るようになっている。</p> <p>・ティータイム時、入居者と共に職員もゆったりと過ごしている。 職員の、ケアへの悩み等を聞き解決に向け話を聞いている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・運営者は月2～3回位現場に来ており、職員の悩み、相談、要望等を聞くようにしている。</p> <p>・働き易い、勤務状況に合わせたシフト作りを心がけている。</p>	<p>○ 職員の資格取得に向けた支援に取り組んで行きたい。</p>
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談があった場合不安なこと、求めていることを聞き場合によっては体験入居をお進めしている。</p> <p>・相談の際は、ご本人、家族の思いを受け止め根気良く話を聞き、安心して頂くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・家族が求めている物を理解し、事業所として何処まで対応できるか話し合いをしている。</p> <p>・今迄のサービス利用状況等を聞き、又苦勞された状況などじっくりお聞きし次の段階につなげている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けた時状況等確認し、可能な限り柔軟な対応を行っている。 ・本人、家族の要望による訪問マッサージ、針灸等のサービスを受け入れている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人や家族に事業所を見学してもらい、安心感を持ってもらうようにしている。 ・見学や遊びに来てもらい、昼食を取って頂く、昼食サービスを行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の残存機能を生かし、協働しながら食事作りをしたり、暮らしの知恵等を頂いている。 ・入居者から、疲れていない？体は大丈夫無理をしないで気お付けてね等の励ましの言葉を掛けてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・入居者の様子等を詳しくお伝えすると共に職員の思いも伝えている。 ・こと細かに家族と連絡を取り、情報共有に努め家族と同じ思いで支援していると言う事をお伝えしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人の希望を聞き、外出や外泊をし家族と一緒に過ごす事を勧めている。 ・本人の家族への思いを受け止めて、こもれび通信でお知らせし行事等に家族をお誘いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人が気軽に訪問できるような雰囲気作りをしている。、家族と共に入居者が出向いている。。	○	地域に暮らす馴染みの知人の家に遊びに行く事が出来るように支援して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・普段の生活の中で、関わりを多く持ち利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。 ・個別に話を聞く機会多く持ち利用者同士の関係がうまくいくように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービスの利用が終了された方にも、行事イベントのお誘いや、暑中見舞い、年賀状、電話での相談様子又は訪問し様子を伺っている。 ・何時でも気軽に訪問して頂ける様に心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居者と家族からだけでなく、その人の縁者や、他方面からの情報も得るようにしている。 ・困難な場合は、日常のかかわりの中から少しずつ情報を得て、本人が何を求めているのか意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居者や家族関係者などから聞き取るようにしている。 ・入居後も折に触れ以前利用されていたケアマネージャーや、訪問ヘルパー等から情報を伝えて貰える様に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・入居者一人ひとりの生活のリズムを日常の関わりの中で、行動や動作を感じ取り、本人の全体像を把握している。	○	本人の出来る力、解かる力を暮らしの中で発見して行き、職員全員が入居者を総合的に見る目を養って行ける様に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人や家族には、訪問時や、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。 ・茶を飲みながら、普段の会話の中で、本人と介護計画の具体的な案をじっくりと話し合うようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・設定した期間に応じた見直しを行うのは基より、状態の変化に応じて終了する前であっても、検討、見直しを行っている。	○	月に一回程度ケア関係者の最新情報や、気づき、アイデアを集約し実情に即した介護計画であるか見直しを行っていくよう取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別にファイルを用意し、日常生活の様子や本人の言葉、排泄状況、食事量、水分量、身体状況を記録に残している。	○	情報を共有しながら、個別の記録がケアの質を保っていく上での大切さを意識しながら、職員全員がキャッチした状況を記録し、介護計画に活かして行きたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の状況に応じて、通院、買い物代行、送迎等を行っている。 ・医療連携体制を活かし、個々の状態、状況に応じた医療相談など家族の同意の元に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・入居者が安心して地域で生活出来るよう、地域の民生員や消防署等より、情報、意見交換が出来るような機会を設けている。 ・地域住民、近隣の知人に働きかけボランティア協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要に応じて、外部のケアマネジャーと連携を図っている。 ・市町村の保健師による、感染予防の講習会を開催して貰っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・今迄に困難事例や事業所内で解決できない問題はなかった。	○	地域包括支援センターと連携を図り協働しながら支援に繋がって行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人と家族の希望に沿った適切な医療を受けている。 ・医療連携による、主治医の月一回の往診と週一回の看護師の訪問による健康管理又緊急時、相談等24時間体制で医療機関と関係を密に結んでいる。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・提携している医療機関による、認知症についての指示や助言を貰っている。 ・認知症に関する診断や治療を個々の状態に合わせた対応をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・提携医療機関の看護師とは、気軽に何でも相談できる関係を維持している。 ・医療連携による、週一回の訪問時に利用者の健康上の悩み、訴えを、聞いてもらい、健康管理努めて貰っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・長期入院によるダメージを防ぐ為に、入院先の医師、看護師、家族と共に話し合いを持ち、早期退院に向けかかりつけ医と連携に努めている。 ・職員、かかりつけ医、看護師と支援状況等を共有し、速やかな退院支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化した場合の対応、終末期のあり方について、家族の意向を踏まえ、事業所、かかりつけ医とその時の状態に合わせた、話し合いを行っている。 ・状態に沿った話し合いを繰り返し行い、方針を全員で共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・家族と話し合い、本人、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医、看護師、事業所と共に、入居者が安心して終末期を過ごして行けるよう取り組んでいる。 ・24時間、緊急連絡網で緊急時対応、相談等対応して貰っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・他の事業所に移られる場合は、支援状況やケアプランをお渡しする他、話し合いや情報交換を充分行うようにしている。 ・移り住むダメージを防ぐ為に必要な点について、情報提供と連携を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員の意識向上を図り、日々の言葉掛けや対応が配慮した物であるように徹底している。 ・個人の介護記録等は、プライバシーを損ねない様な配慮を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者に合わせて働きかけを行うようにし、職員側の押し付けにならないように注意している。 ・本人の嗜好に合わせて、飲み物や食べ物を自分で決める場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一日の流れは、時間に合わせるのではなく、その時の気持や、体調に配慮し、できるだけ柔軟な対応に心がけている。 ・入居者の一日の流れ(生活ペース)はあるが、個別的支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・その日に着る洋服を自分で選んだり、お化粧をしたり、本人の気分、気持を大切にするように心がけている。 ・自己決定がしにくい入居者には、職員と一緒に考え支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・時には、入居者の食べたい物など相談しながら、メニューを決め、入居者と職員と一緒に調理したり、片付けを協働で行っている。 ・職員と一緒に、畑で収穫した野菜を調理し、全員でテーブルを囲み、食する楽しみ、喜びを味わっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・なるべく、本人の好むおやつを用意し、満足して頂ける様に心がけている。 ・手作りのおやつや、漬物などを、入居者と共に作り、達成感を味わい、楽しみながら支援するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく支援を行っている。</li> <li>紙おむつなどの使用回数を減らし、可能な限り、トイレで排泄が出来るよう支援を行っている。</li> </ul>		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴日は、週二回行っているが、状態又は希望に沿って臨機応変に対応している。入浴拒否が毎回ある利用者に対しては、言葉掛けや対応の工夫を行なっている。</li> <li>気の合う入居者同士、一緒に入浴を楽しんでいる。利用者の体調、気分、都合に合わせた対応を心がけている。</li> </ul>		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>外気浴や、散歩、日中の活動を多くし、生活リズムを整えるようにしている。</li> <li>夜間安心して、気持ちよく眠れるように、夕方からは穏やかな気持ちで過ごして頂くように心がけている。</li> </ul>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの持っている力を発揮して貰えるように、支援している。(草むしり、植木の水やり、洗濯干し、洗濯たたみ、食事作り、食器の洗い物等)その都度感謝の気持ちを伝えている。</li> <li>入居者と相談しながら、外出、買い物、地域の行事等の参加を行っている。</li> </ul>		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>小額の金銭管理が可能な人に限り、買い物などに出かける際本人が自分の財布から支払える様支援している。</li> <li>お金を持つことで、本人の安心感や満足感を味わえるようにしている。</li> </ul>		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候や体調に配慮し、外出支援を行っている。</li> <li>お花見、イベント、お祭り等に参加し季節感を味わって貰っている。</li> </ul>		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者、家族、職員で出かけられるような機会を設けたい。</li> </ul>	○	日帰り旅行や一泊旅行などの実現に向け、検討して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・個人の携帯電話設置あるいは、事業所の電話でやり取りが出来るように支援している。 ・年賀状、暑中見舞いのはがきy手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・訪問時間の制限はせず、何時でも気軽に、訪問できるよう対応している。 ・ティータイム時には、入居者と一緒に、おやつを召し上がって頂いたり、レクリエーションに参加してもらっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ミーティングや毎日の申し送りで、ケア内容を振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないかを話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・本人の安全を確保する為に、職員の目の届かない所は、仮の施錠をして、危険を回避出来る様な対策を取っている。 ・入居者の外出時は、声掛けを行い、同行し、見守り介助を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は、入居者と同じ空間で過ごせる様煮、利用者の近くで記録等を行いながら、さりげなく対応している。 ・日中は、フロアで職員が見守りを行い、夜間は、居室が見通せる場所で、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・入居者の状況変化に応じ、注意が必要な物品の管理の取り決めをしている。 ・危険要因を把握し、管理方法を再度確認してみる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ミーティングで、一人ひとりの状態に応じて、予測される事故防止策について話し合っている。 ・職員の共通認識をはかり、日々の事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防訓練は、定期的に消防署の協力を得て、実技を含む、指導は受けている。	○	災害時の、初期応急手当の訓練を、職員全員で定期的に訓練実習を行うようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・利用者、職員の訓練は、行っているが、地域の協力を得られる様働きかけて行く。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・起こり得るリスクについて、家族訪問時に説明し話し合いを行っている。 ・行動範囲を広げる事により、リスクが高くなるものの、本人にとって、生活に自由な暮らしが出来、むしろ障害を少なくしている事を、家族に説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・バイタルチェック毎日行い、様子の変化を見逃さず、対応するようにしている。 ・常に顔色や様子に注意し、観察を行い早期対応に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の支援は、本人に手渡し、飲んだ事の確認を行っている。かかりつけ医、薬剤師の指示により服薬介助を行っている。 ・医師より、処方される薬に変更などあった時は、その都度職員が、把握できるように、申し送りや、連絡帳に記載し、服薬の確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・薬のみに頼らず、朝夕の食事に、乳製品を取り入れている様にしている。 ・利用者の状態に合った、運動を、レクレーションなどを交え行うようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、口腔ケアを行い、見守りや介助を行っている。 ・必要に応じて、訪問歯科による、治療、ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量、水分摂取量のチェックを行い、本人の希望、状態に合わせて対応している。 ・食事、水分が不足しているときは、状態、状況にあわせ、捕食や飲み物に工夫を行い支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・手洗い、うがい、使い捨てグローブの使用、共有箇所の消毒などを行い、利用者、職員の予防注射を行っている。 ・感染症予防に対してのマニュアルがある。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・新鮮な食材の確保を行い、買い置きをしないようにしている。 ・夜勤泰で、調理器具、布巾、まな板の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・建物の周りに、樹木や季節の花を植え、玄関出入り口は、広々とした空間を作っている。 ・玄関入り口に、花や樹木を置き、落ち着いた雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者が書いたり、作った物を貼り出したり、季節感が解かるように、季節に応じた飾り物などしている。 ・利用者が、台所などに自由に入出入りし、お茶を入れたり、片付け物をしたりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・フロアで、テレビを見たり、新聞、雑誌を読んだり、気の合った利用者同士で庭で話をしたりと、思い思いに過ごしている。 ・和室の掘りごたつで、お茶を飲んだり、寝転んだりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族の意向に配慮し、危険が無いように居心地良く過ごして貰える様にしている。 ・新しく、購入するのではなく、なるべく本人が今迄使用していた物などを、お持ちいただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居室の窓を開放したり、天窓を開放したりして、空気の入れ替えを行っている。 ・居室や、廊下、リビング、など温度差がないように、温度調節をこまめに行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は、バリアフリーに成っており、車椅子移動や歩行に支障のないように工夫されている。 ・共用のトイレや、廊下などに手すりを取り付けてあり、危険が無いような工夫ががされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室の出入り口に、ご自分の部屋が、解かり易いような工夫をしている。 ・毎日の、月日、曜日、その日に行う行事内容を掲示するなどの工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダからでも外に出られるようになっていて、自由に入っている。 ・ベランダには、車椅子でも出入り可能なスロープを取り付けて有り、職員と洗濯物を干したり、花や、畑を眺めたり、楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

◇家庭的な雰囲気作り、自分も何かをやり、役に立っている、出きる事への自信、喜びを持って頂いている。

◇家庭的な食事の提供、自分達の手で育てた野菜、戴いた野菜、作物を協働で調理し作る事への楽しみ、食べる事への喜びを感じて貰っている。

◇のどかな田園風景に囲まれ、時には、馬の鳴き声が聞こえ、猫が毎日顔を出し、出来る利用者が、出来ない利用者を助け合ったり、地域住民と挨拶をかわしたりしながら穏やかに過ごしている。